

ぎやらりーわ

NO.56

2011年10月号



花の村内散歩 病院前に咲くフォックスフェース

編集・発行 NPO法人グループわ(西田圭一) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



南三陸町の田んぼでガレキと格闘する田んぼチーム(7月21日)

東北支援チーム奮闘

NPO法人グループわが派遣した「東北被災地支援チーム」(団長・道満俊徳、17人)は、7月18日から22日までの5日間、宮城県大崎市の「NPO田んぼ」(岩淵成紀代表)を拠点に、南三陸町・大崎市・登米市地域で、田んぼのガレキ処理や児童館での昔遊び公演を実施。カレッジの皆さんから託された日用品・衣類など大量の支援物資を登米市内の避難所に届けてきました。子供たちや避難所の皆さんからは「ありがとう。また来てね」との声がかり、メンバーは「行ってよかった。息長く支援を続けよう」との思いを深くしました。福祉振興協会も20~22日に宮城・福島に音楽チームを派遣、コンサートを開催しています。第2陣は10月中旬に女川・石巻・東松島・名取に派遣の予定です。(広報・南形徹)(関連記事2~8面)



ボランティアの輪をひろげよう

56号の内容

第2陣は10月中旬、女川・石巻・名取・東松島へ	7面
座談会「東北へ行ってよかった」	4・5面
3団体に神戸市環境功労賞	8面
手話コーラスを訪ねて	9面
「ボランティアの心」、わ臨時総会	10面
村の野鳥物語、未来館から	11面
カラーグラフ 夏祭り	14面

[目次の頁へ](#)

1

[次頁へ](#)

「また来てね」嬉しかった子供の笑顔

グループ わ が初めて派遣した東北被災地支援チームは、活動を通じて現地の惨状を体験、被災者の声を聞くことができました。5日間の行動をざっと振り返ってみました。（写真は迫児童館で）

支援物資を満載して現地へ

7月18日早朝、4台の車に物資を満載してシルバーカレッジを出発。名神～北陸～磐越～東北のルートで同夜、宮城県大崎市へ。

19日朝、「NPO田んぼ」で物資を降ろし、2班に分かれてボランティア活動を開始しました。田んぼ修復班の9人は南三陸町入谷の棚田でガレキ除去作業。昔遊び班7人は、登米市米山児童館（40人）と中田児童館（60人）で約2時間ずつ公演。プログラムは南京玉すだれ・紙芝居・昔遊び・動物風船・歌。最後に神戸の子供たちからのメッセージとボール・おもちゃなどのプレゼントを渡しました。「子供たちの表情もだんだんほぐれ、明るい笑顔に変わった。うれしかったですね」と大澤さんもニコニコ顔。



昔遊びと音楽チーム合同公演

20日は、台風6号の余波で大雨の予報。ガレキ作業は中止となり、田んぼ班は昔遊び班に合流したり、気仙沼方面へ見学に出かけたりしました。昔遊び班は午前中、大崎市大貫小学校（60人）で昨日と同じようなプログラムで公演。

午後は、登米市迫児童館（70人）で福祉振興協会の音楽チームと合同公演となりました。音楽チームは子供たちと歌ったり、踊ったり、にぎやかです。お次は、昔遊びの出番。子供たちも、保母さんも熱心にアヤトリやブン

ブンゴマを習っていましたが、公演が長引いたため会場はだれ気味。盛りだくさんなプログラムが終わった夕方6時には、子供たちも20人くらいに減っていました。



【第1次支援チームメンバー】

1班（田んぼ）= 内村ナナ子、平林啓子、水嶋和信、清野清、小澤輝彦、片岡隆夫、海野龍英
2班（昔遊び）= 内田たみ子、増金スミ子、古後健一、飯川泰郎、大澤貞男、黒本茂弘
わ本部 = 道満俊徳（団長・1班）芦田義和（1班・会計）渡邊佳視（2班・総務）南形徹（2班・広報）

丸太と格闘、2反の瓦礫処理

21日は曇天で涼しい朝。田んぼ班は入谷地区で作業を続行し、丸太や畳と格闘。19日と合わせ計2反ほどのガレキ処理を終えました。「アルバムや学校の帳簿類がヘドロに埋まっており、掘り出すのがつらい」と内村さんは悲しそうでした。作業は午前中で切り上げ、昔遊び班と合流して昼食。午後は宮城学院女子大の佐藤幸也先生（岩淵氏の友人）の案内で南三陸町と石巻の被災地を見学しました。高台から見下ろす南三陸町は、見渡す限りガレキの山。ところどころに、鉄骨だけになったビルが無残な姿をさらしています。防災センターもその一つ。「早く逃げて」と防災無線で叫び続けた女性がいた建物です。祭壇に花を供え、手を合わせる人が絶えません。

廃墟の校舎...涙とまらず

70人を超す子供たちが犠牲になった大川小学校。道路脇の祭壇には花や玩具・飲み物・本が供えられ、廃墟と化した2階建ての校舎を眺めるチームの皆さんの目からは涙があふれていました。周辺には今でもわが子を探す肉親が訪れているそうです。

22日は早朝、大崎市の宿舎を出発。往路と同じルートで深夜に神戸・シルバーカレッジ帰着しました。18～21日の宿舎は、大崎市内のホテルなどを確保することができましたが、避難者・ボランティア・長期出張者で込んでおり、3か所を転々となりました。

道満団長は「わずかな期間だったが、現地でお手伝いができて、行った甲斐があった。オールKSCの絆を深めることもできた」と満足そうでした。



田んぼ修復
南三陸町入谷地区で
子供と遊ぶ
登米市追見児童館で

東北支援チームの写真は
渡邊・水嶋・古後・南形撮影



ガレキの町南三陸
廃墟の大川小学校

がんばったぞ 震災ボランティア

丸太や悪臭とたたかった田んぼグループ。被災した子供たちに笑顔を取り戻した昔遊びグループ。大津波で壊滅的な被害を受けた南三陸町地域で、5日間にわたって活動してきたKSC支援チームは、現地では何を感じ、何を見てきたのか。その体験を今後の支援にどう生かしたらいいのか。6人の参加者に、ざっくばらんに話し合ってもらいました。

(下の写真は迫児童館での公演)

出席者

小澤輝彦 (生13)

内村ナナ子 (国18)

大澤貞男 (生13)

内田たみ子 (福10)

古後健一 (健18)

司会 道満俊徳(わ本部)

座談会



話し合う古後・内村・大澤・
内田・道満・小澤の各氏
(左から時計回り)

東北行きの念願かなった

東北支援、お疲れさまでした。まず率直な感想から聞かせてください。

内村 娘に、お母さん頑張ってきたね、ってほめられちゃった。次回もぜひ、参加したい。

小澤 阪神大震災でお世話になったので、恩返しをと思っていた。ただ、田んぼでの作業時間がちょっと少なかったかな。自炊生活も覚悟してテントや食料、コンロも持参したが、ビジネスホテルに泊まれて良かった(一同うなづく)。

内田 阪神の経験から、映像だけでは実相がわからない。ぜひ現場を見てみたかった。現場の大変さがわかったし、何よりチームの絆ができて良かった。

古後 東北行きの念願がかなって嬉しい。子供たちと楽しい時間を過ごすことができた。神戸と東北の交流は、ぜひ続けたいですね。

大澤 どんな遊びが喜ばれるのか、行く前は不安だったが、また行きたいという気持ちに変わった。

田んぼ作業も経験したかったなあ。

昔遊びで子供たちに笑顔

昔遊びの内容、子供たちの反応は？

古後 昔遊びのプログラムは、短時間に圧縮したけど中身は濃かったし、本当に喜んでくれた。神戸の子供たちのメッセージを届けることもできた。今後は神戸と東北の子供たちの橋渡しができれば、と思っている。

内田 昔遊びに接することが初めての子ばかりで、初めは表情も硬かった。慣れてくると、神戸と同じような笑顔や反応もでてきた。あちらには、子供相手のボランティア団体そのものがないようですね。

大澤 内田さんが、「ありがとう」「こんにちは」という挨拶をみんなにさせていた。これは良かった。指導員も先生も真剣に見ていたね。

丸太や豊運び頑張った

田んぼはガレキ運びでした。先方(岩淵代表)も「重いものはいいですよ」と言う態度で、それほど我々に期待をかけていなかったようだ。でも、次々と丸太まで片付けたので、びっくり。初日を終える頃には握手を求められ、態度が一変していた。みんなが頑張ったお陰です。

小澤 ポート、丸太、豊など大物ばかりで手間がか



かった。小物を拾うことまでできなかったのは残念。

「事前にどんな作業をするのか、わかっていたらなあ」と思った。

内村 田んぼに入ったのは初めてでした。ガレキも臭いもすごかったが、アルバムや給食のバケツ、帯や服も出てきて「ああ生活があったんだな...」と。見るのがつらかったです。

大川小で大泣きしてしまった

最終日、南三陸や石巻を地元の先生に案内してもらいました。見渡す限りガレキの山で防災庁舎や大川小の前に作られた祭壇では、みんな涙をこらえきれなかったようですね。

古後 残骸となった大川小の教室を見て回って、胸が詰まった。わが子を捜すお母さんの悲痛な手紙（別表）や泥に埋まった玩具をみて、不覚にも大泣きしてしまいました。

内田 防災庁舎や大川小学校を目で見て、足で歩



いて、胸がこみあげてきた。テレビと現実はこんなに違うものかなあ、と実感しました。ビルが残っていても鉄骨だけで生活の痕跡が何もない。阪神大震災とそこが一番違うところでしょうね。

小澤 大川小だけでも、まだ行方不明の子が多数いるそうです。今でも学校周辺でわが子を捜す肉親の姿が見られると聞いて、心が痛んだ。

大澤 大川小では、「ここで一緒に子供たちと遊べたらなあ」と思って、ジーンとききました。

内村 田んぼにも咲いていたヒマワリが、大川小にもぼつんと悲しそうに咲いていた。お子さんを亡くしたお母さんが植えられたとか。今度は私もヒマワリの種を持って行こう。

今後の支援は心のケアも

今後の支援はどうすべきでしょうか。

小澤 田んぼをやるなら、大物は重機を使ってやるべきでは。私たちは小さな家財を拾い集める方が効率的でしょうね。公共事業の手助けの方が良いという気持ちもある。

古後 宿泊や公演場所の選定は大切なので、今回世話になった「NPO田んぼ」との連携は大切にしましょ

う。雨天の場合の野外作業をどうするか、は考えておくべきだった。

内村 心のケアの一つとして、お年寄りの話し相手になってあげるような活動も必要でしょうね。

大澤 1年後に、同じ場所（児童館）に行ってみたい。昔遊びグループは、いつでも参加しますよ。

内田 現地へ持ち込んだ何百点という（昔遊びの）材料や作品は、うちのサークル全員が準備してくれた。何をやるにも、サポート体制はとても大切です。

そうですね。今回もダンボール65箱もの支援物資がカレッジの皆さんの協力で短期間に集まった。

大澤 登米市の避難所へ届けたら、とても喜ばれた。自治体では物資を受け付けていないので、持っていった甲斐があった。かえっこバザールで残った玩具や わ 本部の皆さんが用意してくれアメ玉の箱も、大もてでした。

司会（道満） わずかな期間でしたが、現地へ足を運んで、ほんの少しお手伝いをする事ができました。復興はまだまだ遠いという印象ですが、これからは子供たちやお年寄りへの“心のケア”も大切です。東北への支援活動はぜひ、続けたいと思っていますのでご協力をお願いします。（一同、力強くうなづく）。

（座談会は同行した渡邊佳視・芦田義和も立ち会

い、8月18日に実施。まとめは南形徹がしました）

左の写真＝大川小の祭壇では手を合わせる人が絶えない

今も、わが子を捜し求める肉親

大川小学校前には追悼の祭壇が作られ、手紙やおもちゃ、飲み物が供えられています。周辺には今もわが子を捜し求める肉親が訪れています。以下は支援チームが涙で読んだ母親の手紙の一つで、古後さんが書き写したものです（抜粋して掲載）。

【わが子・巴那へ】 巴那のこと、さがし出してあげられなくて、ごめんね。夢にも出て来れないから、お父さんもお母さんも、おじいさんもおばあさんも、みんなさみしいよ。夢の中で会えたら、おもいっきり「だっこ」してあげるよ。

【わが子・巴那へ】 お父さんとお母さんは、矢本のおじいさんの家にひっこしました。矢本の家には、お兄ちゃんと巴那の使っていた物がいっぱいあって、2人のことを思い出して泣いてばかりいます。巴那は「大きくなってもお嫁さんに行かないで、お母さんのそばにずっといるよ！」って言ってくれたのに…。今日も、おばあさんとお母さんは巴那に会いにここに来ました。ここにきて巴那と同じ空気を吸っていたくて…。でも、やっぱりもう一度、巴那の声が聞きたい。巴那の笑顔が見たい。巴那に会いたい。

東北で見たこと、思ったこと 18人の証言

グループわの支援チーム17人と振興協会に同行した昔遊び研究会メンバーが、ひと言ずつ語る「東北で感じたこと・思ったこと」。

海野龍英 田んぼの再生がいかに難しいか、現地へ行ってよくわかった。ガレキ除去など、いい経験になった。自炊がなく、食文で磨いた腕をお見せできなかったのはちょっと残念…。

内村ナナ子 町なのに家が無い。人もいないし、花もない。あるのはガレキの山だけ。哀しい光景だ。でも、数日、田んぼを手伝って東北が好きになってしまった。「こんどは、ここにお嫁にこよかな」。

片岡隆夫 あちこち、ボランティアに行ったが、ヘドロを生かした田んぼの再生というプロジェクトは初めてだ。意義ある活動だったし、期待された以上の成果があったと思う。

平林啓子 いい出会い、いい経験ができた。昔遊びを手伝った時、保母さんから「皆さんのおかげで、子供たちも明るく元気になった。こんどは65歳以上の方への支援をお願いしたい」と言われた。

小澤輝彦 阪神大震災の際、私の職場は東北の人はずいぶん世話になった。「今度は自分の番だ」と思って真っ先に手を挙げた。もう少し長い期間、手伝いをしたかった。次があるかな。

道満俊徳 田んぼ作業は、大して期待されていなかったようだ。初日の作業を終えたとたん、先方の態度がガラッと変わり、力強い握手が返ってきた。私たちのパワー、熱意に脱帽、という感じだった。

水嶋和信 三陸海岸を山越えで気仙沼まで走った。マグロ漁船が入っており、一見、魚市場が再開したかと思ったが、冷凍設備など港の機能は全く回復しておらず、余計わびしさがつづいた。

芦田義和 家が倒壊しても生活の臭いが残っていた阪神大震災と違って、大津波は根こそぎ生活を奪ってしまう、ということが実感できた。いい経験ができ、参加してよかった。

清野明 気仙沼の海に護岸の残がいの柱が何本か立っていた。南三陸では満潮になると道路が冠水する。いかに地盤沈下がひどかったかの証だ。里山

での作業経験がガレキ除去に役立った。

渡邊佳視 病弱な私は、自分自身への挑戦だと思って東北へ行った。自信もついたら、強力な仲間もできてうれしい。昔遊びの公演は、どこへ行っても子供たちに歓迎され、感激した。

古後健一 わのおかげで、念願の東北被災地へ行くことができた。神戸の児童館・小学校を回り、子供たちから集めた「激励メッセージ」を、現地の子供たちに読んでもらうことができてよかった。

大澤貞男 昔遊び公演で、笑顔の子供たちと数日過ごしたあと、大川小の校舎を見に行くと大ショックを受けた。慰霊塔の前で、「この子供たちとも一緒に遊んでやりたかった」と感無量の涙が…。

増金スミ子 芸は身を助けるというが、私は南京玉スダレや動物風船で、被災した子供たちとも楽しい時間を過ごすことができた。ボランティアは天職と思って、いつも一生懸命やっている。

黒本茂弘 多数の児童が亡くなった大川

小の現場に立つと阪神大震災とイメージが重なり、涙が止まらなかった。昔遊びで、子どもたちから「また来てね」と言われて嬉しかった。

内田たみ子 どの児童館でも、子供たちが昔遊びをしながら、本当に笑って、喜んでくれたことが何より嬉しい。皆さんのおかげで、楽しい思い出がたくさんできた。行ってよかった。

飯川泰郎 震災直後、仙台の知人女性に連絡を取ろうとしたがどうしてもダメ。これは自分で現場を見なきゃ、と参加した。知人とは、帰宅後、無事であることが確認できた。（ああ、よかった）

南形徹 かつて伊勢湾台風の高潮に襲われ、濁流の中を逃げ惑った経験がある。三陸の被災現場に立ち、ガレキと化した町の惨状を肌で感じ、大自然の猛威・津波の怖さを改めて思い知った。

田邊瑩子 東六郷小（仙台）で一緒に遊んだ子供たちの笑顔が忘れられません。多くは両親を亡くし、心に深い傷を受けた遺児。これからどうなるのでしょうか。〔早く笑顔を取り戻してね〕と祈るばかりです。

（写真=7月17日夕方、カレッジで壮行会）



第2陣は女川・名取へ

15日～19日 10か所で公演

グループ わ の東北支援チーム第2陣は今月15日に出発。19日までの5日間、女川町・石巻市・名取市・東松島市で計10回の慰問活動を行います。昔遊び・紙芝居・マジック・歌など「いやし系」のプログラムが中心で、メンバーは関係サークル有志と、本部から2人の計15人です。

15日早朝、新神戸から新幹線で仙台へ。レンタカーで各地域の仮設住宅・小学校・幼稚園・児童館を回り、19日の夜行バスで帰る日程です。今回の助成金は、福祉医療機構からなので「子供対象の活動」という条件がついており、ガレキ除去などの作業は見送ることにしました。12月には石巻・東浜小学校の児童を招待するプランも進んでおり、今回、先行訪問して交流を深めることになりました。

【予定の公演先】16日＝午前、午後とも女川町の仮設住宅。17日＝午前、午後とも女川町の仮設住宅。午前は東松島の幼稚園も。18日＝午前は石巻・東浜小学校。午後は名取市の保育所・児童センター。19日＝午前、午後とも名取市の保育所と児童センター。

【第2次支援チーム参加者】西田圭一・道満俊徳（わ本部）大澤貞男（生13）内田たみ子（福10）増金スミ子（福11）飯川泰郎（国12）古後健一（福18）中村宏栄（福9）高木良治（福10）田邊瑩子（福12）波多野武郎（食16）黒本茂弘（食13）南形公子（福13）海野龍英（食16）内村ナナ子（国18）

石巻の小学生を招こう

石巻の子供たちを神戸に招いて交流しよう

グループ わ は、12月10～12日の3日間、神戸市立竹の台小学校（西区）に宮城県石巻市立東浜小学校の児童・保護者ら22人を招待しようと準備を進めています。一行は10日に新幹線で神戸へ。ルミナリエを見学してしあわせの村に宿泊。11日はバスで明石大橋・須磨水族園・王子動物園などを巡り、同夜もしあわせの村に宿泊。12日は竹の台小学校で交歓会を開き、午後の新幹線で帰途につきます。11日の市内観光には藍那小学校（北区）の児童ら13人も同行します。

この交流会は、福祉医療機構からの助成金が決まり、実現することになったものです。東浜小には、第2次東北支援チームも訪問する予定です。同校は、牡鹿半島の山間地にあり、児童は23人。津波の被害はなかったが、現在も1階は避難所になっているそうです。



登米市迫児童館でメッセージ贈呈

手から手へ...神戸の心届けた

財団法人こうべ市民福祉振興協会 佃 孝司

東日本大震災の募金活動は3月から始めましたが、私のセクションの担当は、神戸からの応援メッセージを届けることでした。市民や小中学生から、「心を一つに」「応援しています」と書かれたメッセージが続々と集まり、5月中旬までに1万通を超えました。募金3千4百万円余りで購入した救援物資と一緒に、現地へ派遣される神戸市職員を通じて岩手・宮城・福島県下17市町の避難所等に直接届けました。

手から手へ、神戸市民の心を伝えよう との思いからでした。

その後も、メッセージを送りたいとの要望が小中学校から相次ぎ、「次は、私たちが直接持って行こう」と、7月のしあわせの村支援隊派遣につながりました。この支援隊は3日間で宮城・福島の4か所を訪問、コンサートやストレッチ体操、昔遊びを避難者や子供たちに楽しんでもらいました。昔遊びの3人は、グループ わ から参加いただきました。

村内にある各福祉施設や事業者からの応援メッセージを届けるとともに、合唱したり、体操したり、はしゃぐ子供たちの笑顔がうれしかったです。「来てよかったな」。私も、出演の音楽スタッフも胸が熱くなりました。特に、仙台市の仮設住宅（若林区荒井小学校用地）には、4か月前に届けた神戸市立垂水中学校からのメッセージパネルが張ってありました。これには感動しました。

9月から本館・宿泊館や温泉健康センターの2か所で東北の物産品を販売しています。販路を失った障がい者施設で作られた燻製品・ぼち袋・封筒などです。今後は、7月の支援活動での「絆」をより深める取り組みとして、被災地の子供たちを村に招いたらどうか、とも考えています。これからも我々ができる息の長い支援を続けたいと思っています。ご協力ください。（談）

グループわ会員の皆さま 支援活動サポート募金のお願い

私たちが展開している東北被災地支援活動にご協力ありがとうございます。3月の義援金約50万円は振興協会を通じて神戸市へ。4月から始めた物資購入募金は約60万円が集まり、農機具・日用品を購入してNPO田んぼへ届けました。9月現在、残高は約30万円となっています。今後は慰問ボランティアが主になり、スタッフの活動費用をどうするか、が課題となってきます。幸い第1次・第2次派遣チームとも公的な助成が得られ、費用の半分程度をまかなうことができましたが、今後の見通しはありません。

8月の運営委員会で「活動費用を生み出すためカンパ募金（サポート募金）をしてはどうか」との提案があり、今回、皆さまにお願いすることになりました。

1口1000円。個人でも、区会、サークル単位でもかまいません。わ本部へ持参いただくか、郵便振替で送金してください。氏名などは「ぎやらりー わ」に掲載します。

カンパ募金などのご報告

10月から開始した〔サポート募金〕の賛同者の氏名・団体名は次のとおりです。（10月5日現在、敬称略）青木千恵子（国14）5千円、西区会役員会1万3000円、西区会1万円、西区アジサイブロック5000円、神戸ぴかぴか隊8900円、西田圭一2万円、江本和嘉子1万円、わ本部理事・監事5万8500円。

【物資購入募金第4次分】（7月1日～9月30日分）ピオトーブ5千円、森の仲間3700円、ケナフの会1500円、環境未来館8251円、伊川農園3千円、兵庫区会千円、うたごえサークル17610円、野鳥と自然観察会23000円、フォークンズ5500円、楽遊クラブ 銀雅13500円、ペタンク6520円木工グループ 1046円、車いす大会1551円、一の谷ブサ 3379円。

【物資提供者】（7月7日～15日）福井昌子、黒本茂弘、小澤輝彦、清野明、江本和嘉子、堺汎、三島重春、市岡勝彦・克子、武田恵津子、吉田美音子、井上、白井、植村佳子。（支援物資の受け付けは終了しましたが、7月15日までの分は避難所へ届けています）

【訂正】55号本欄で「万歩計（長谷川）」とありましたが、上田氏の誤りでした。

【第1次東北支援チーム収支】 収入 = 96万500円（市の助成金30万7000円、福祉振興協会10万円、わの支援金10万円、KSC職員有志から3万円、わ理事・職員から8万3500円、参加者徴収金34万円） 支出 = 93万2410円（レンタカー4台19万5300円、ガソリン代14万6786円、車修理代4万円、宿泊代・食事ほか55万324円）。

【義援金・物資購入募金収支】9月現在。 総額116万856円。使用分 = 振興協会へ委託48万4000円。救援物資購入35万4799円。残金32万2057円。

【物資購入の内訳】支援物資購入額 = 35万4799円（農機具16万6929円、野菜種子15518円、長靴用鉄板中敷4万1580円、日用雑貨9万529円、医薬品1万3848円、交通費6175円、物資運搬費2万220円）。

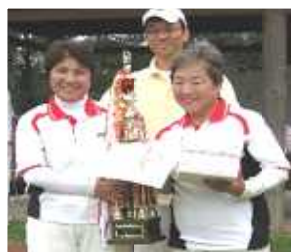
活躍レポート

3グループに環境奨励賞

環境保全に貢献のあった団体を顕彰する23年度「神戸市環境奨励賞」に、グループ わ から「野鳥と自然観察会」（茅中英一代表）・「里山和楽会」（道満俊徳代表）・「花山梅林会」（塚本桂三代表）の3団体が選ばれました。10月20日に産業振興センター（ハーバーランド）で表彰式が行われます。

野鳥と自然観察会は2003年設立。バードウォッチングを開いたり、巣箱を設置したりして、しあわせの村に飛来する野鳥の保護に努めています。会員54人。里山和楽会は2007年3月、かがやき神戸が管理する里山を整備しようと設立。間伐材の伐採や林道づくりを進めています。会員20人。花山梅林会は2006年から花山小学校裏の通学路と梅林整備に取り組み、植樹などによってエリアを広げ、地域に親しまれる梅林づくりに努めています。会員35人。

同賞は今年度から設けられ、環境保全活動を3年以上続けている団体を対象に表彰するものです。



宮崎・井上ペア、日本選手権優勝

ローンボウルズ日本選手権大会が9月10～11日、北海道石狩市の会場で開かれ、KSCから参加した宮崎（生12）・井上（園15）組が女子ペアーズに出場、強豪ペアを大差で破り、見事優勝しました（写真㊤）。男子の坂本（生9）・竹田（生12）組は4連勝で予選を突破、快進撃を続けましたが、決勝戦で敗れ準優勝に終わりました（写真㊦）。この大会は、関西・中京・関東・北海道の各地域の予選で上位に入賞したチームが出場しました。KSCの男女ペアはWingローンボウルズクラブの会員で、しあわせの村グリーンでの練習の成果が表れたものと思います。（部長・竹田宏）

男声合唱団が審査員特別賞

20回目を迎える全国シルバー合唱コンクールは9月16日、40組が参加して神戸文化ホールで開かれ、KSC男声合唱団は審査員特別賞に輝きました。この日は小埜直指揮で「梅雨の晴れ間」「夢を見ようよ」の2曲を見事なハーモニーで披露。3年前の銅賞に続く栄誉となりました。（堺汎・園芸15）

歌と手話に乗って...子供もお年寄りも

子供たちと一緒に手話コーラスの練習（狩場台児童館で）



ボランティア最前線

K S C手話コーラス同好会

サークルとしてはまだ新しいですが、人気のあるKSC手話コーラス同好会を訪ねてみました。この日（8月6日）は、西区狩場台児童館で月1回開かれている手話教室日。スタッフは代表の山下春美（福8）井上堅（福8）井上美津子（食11）北島輝子（福12）さん。さてその授業風景は？

出席は小2・小3の女子6人だけで、少しさびしい感じがしましたが、花火大会とお祭りがあったからでしょうね。この日の歌は「線路は続くよ」「翼をください」「七夕」「花火」「おじいさんの古時計」の5曲。子供たちに聞くと「まだ習い始めたばかり」とか「2年前から」との返事でしたが、子供たちもスタッフも熱中し、60分の授業ははあっという間に終わりました。

手話コーラスは、歌詞を手話で表します。眼で見る言葉と言ったらいいのでしょうか。これに音楽がつくので、聴いていてもとても快いのですが、聴覚障害者には、メロディーやリズムが伝わらないのが残念です。「手話での会話はできませんが、片言英語のように単語を連ねることで意味は通じます。使っている（表現している）手話は、公式に使われているものですから」と北島さんが説明してくれました。

小学生は手話の基本を学ぶことで、高齢者は歌いながら手話の動作をすることで、楽しみながら

脳トレになるようです。手話を演じているスタッフ自身にとっても大きな生き甲斐になっていると思いました。

この同好会は、平成18年からグループ わ に所属しており、部員は42人。練習は、ひよどり保養センターの研修室で行っています。山下さんはK S Cに在学中、手話歴20年の清原秋義さん（故人）に誘われてこのクラブを作りました。活動の場は広く、狩場台児童館をはじめ、高齢者介護施設、地域ふれあいセンター、学園祭、その他で年間30～40回になります。

教材を考え作成するのは井上堅さん。妻の美津子さんのパソコン技術が大いに役立ちます。高齢者対象の時は、昔の歌を採りあげ、その当時の話や映像も交え、音楽と手話でそれぞれ音楽療法を兼ねた情景になるそうです。やはりKSC在学中に手話に出合って、今も続けているのが北島さん。地域の婦人会や老人会に頼まれて教えています。「歌詞の暗記がひと苦労ですが、つらいとか止めようとか、思ったことは一度もありません」ときっぱり。がんばってくださいね。

*取材を終えて 秋のコンサートや発表会に向けて、子供たちもスタッフも懸命の練習が続きます。今度は、舞台上で元気よく演技する姿を見たいな...と思いました。

（取材と写真 広報・宮里寿子）

ボランティアの心

英語や日本語点字で社会貢献

私が点字に初めて出会ったのは、シルバーカレッジ（KSC）に入学し、国際コースの竹田恭子先生の授業で、英文字のアルファベットで自分の名前を手打ちしたときである。そのときから点字に興味を持ち、英語点字グループに入り、点訳ボランティアを始めた。ここでは、英語の小説を点訳し、東南アジアの英語圏の国々（ネパール、ブータン、ミャンマー、タイなど）の盲学校へ、点訳本を寄贈している。今までに点訳した本は、100冊を超えた。しかし、英語点字だけでは、日本の視覚障害者に対する貢献ができないので、KSCを卒業後、日本語点字を習得し、現在「点訳ボランティア連絡会」の中の一つのグループで、日本語点訳のボランティア活動を行っている。

日本の視覚障害者数は、平成18年の統計では約31万人、そのうち、全盲者は約3割弱である。したがって、「視覚障害者の多くは、僅かであるとしても眼から、形状や色彩の情報を、得ることが



できる。」ということを知りたい。たとえば点字を知らなくても、街で出会う白杖（はくじょう）を持った視覚障害者への手助けは、いろいろな手段で可能であり、また、そのサポートを待っている人は多い。

たとえば、電車に乗っている視覚障害者の人たちは、席が空いているかどうかわからないことが多い。自分の目の前の席が空いていても気がつかないことがある。そんなときは、「この席は空いていますよ。」と声を

かけてあげてほしい。

また、点字ブロックの上に、違法駐輪の自転車などが放置され、点字ブロックに誘導されて歩いている視覚障害者が立ち往生している姿を、ときどき眼にする。中には、自転車列の中に突っ込み身動きできない人もいる。このような状況になると、方向感覚が狂ってしまい、誰かの手助けを必要とする。そういうときは、是非、声をかけて手を差し伸べて欲しい。（今田紘 国際12期・須磨区会）写真＝ミャンマーの僧院で点字本を読む少女

グループわが臨時総会

グループわの臨時総会が8月2日、カレッジ学習室で開かれ林哲司氏（生11）の除名問題を審議。採決の結果、賛成多数で林会員の除名が正式に決まりました。総会には45人が出席。今田紘氏（国12）を議長に選出したあと、委任状を含め総会成立の定足数（599）を満たしているとの報告があり、執行部から出された除名議案について議事を開始。おもな除名理由は メールによる攻撃 第三者への脅し行為 自分勝手な県への申し立て、などによるグループわに対する名誉棄損となっています。

「いきなり除名は厳しいのではないか」などの意見がだされましたが、執行部から「わの規約上、処分は除名1種類しかない」との説明がありました。林会員からは、総会手続きや運営について異議あり、の発言がありました。約2時間の審議の末、議長が採決を宣し、開票の結果は、委任状を含めた賛成813票、否認10票となりました（委任状812・出席45計857票のうち、棄権・無効・退席が計34）。

今臨時総会は、定期総会（5月19日）での「緊急除名動議は、NPO法に則っていない」と県から指摘を受け、あらためて会員の意思確認をしたものです。

10月30日に文化の祭典

18団体がパフォーマンス披露

地域とのつながりをもっと深めよう グループわは10月30日（日）、第2回「地域交流と文化の祭典」をシルバーカレッジ（ホール）で開催します（午前10時～午後3時30分）。舞踏・合唱・演奏・マジックなど13団体が出演するほか、地域の子供たち5グループを招き、一緒にパフォーマンスを披露します。ロビーでは4団体が作品展示をします。昼食時にはパン類も販売していますので、カレッジの皆さん、地域の方々をお誘いのうえ、ご来場をお待ちしています。

【出演・展示団体】SCハワイアンズ・大正琴プリムラ・新舞踊クラブ・マジッククラブ・混声合唱団コー口KSC・楽遊クラブ銀雅・ボランティアグループわらべ・KSC手話コーラス同好会・おはなし系車・KSCハワイアンフラ・KSC民謡クラブ・一寸奉仕・KSC男声合唱団・俳友会・昔あそび研究会・絵手紙グループ・書道 地域参加＝ZAP（ダンス・西区）レインボーキッズ&ティンカーベル（コーラス・須磨区）ひよどり台中学吹奏楽部（北区）大槻祐希未（津軽三味線・垂水区）六甲道児童館銭太鼓クラブ（灘区）

しあわせの村 野鳥物語



ヒナに餌...1日200回

多くの野鳥たちは昆虫等の餌が豊富な春（3-5月）に子育てをします。早春にオスは美しい声で「さえずり」始めます（メスを求め、縄張り宣言）。私達の6年間の観察では、シジュウカラは、番（つがい）を形成すると下見して気に入った巣箱でメスが主体でオスは見張り役で巣作りを始めます。巣材は近くにあるスギゴケを土台に、タマゴやヒナが触れる産座には柔らかくて温かい動物の毛や羽毛等を敷き詰め3-5日間で見事な巣を完成します。

巣ができるとメスは毎朝1個ずつタマゴを平均7-9個産みます（7-9日間）。抱卵はばらばらにヒナが孵化しないよう全てのタマゴを産み終わってからメスが約2週間行きます。巣作りと抱卵中は大変神経質になっており、巣の周辺に人間が近づくと巣をタマゴもろとも放棄する恐れがあります。2週間後ヒナが孵化するとオスも加わりヒナへの餌探しと運搬に大忙しで、早朝から夕方

まで、一日200回以上も餌を運び込みます。ヒナに餌を与えた後、ヒナが出したゼリー状の袋に包まれたフンを親鳥が遠方へ捨てに行きます。近くに車や人間がいても100m以上、いない時にも約30m離れた場所へヒナのフンを捨てています。外敵から巣を守る親の愛情の深さを感じます。

それでも何箱かはヘビ等の外敵に襲われ自然界の厳しさを感じます。

さらに約2週間後（巣作りから約40日）ヒナは巣立ち、

しばらくは近くの枝で親鳥から餌をもらいながら採餌方法等を学び、巣立ちから約1か月後独り立ちします。毎年150-180羽のシジュウカラやヤマガラスのヒナが巣立ちましたが、ヒナの翌春までの生存率は外敵、餌不足、寒さ等のため10%未満と言われていますが、巣立ち後の生態が未だ詳しくは分かっていません。来春、環境省の許可のもと私達の巣箱のヒナに専門家により足環を装着予定です。（野鳥と自然観察会 茅中英一）



ヒナのフンをくわえるヤマガラス。川上操六さん提供

未来館エコスクール盛況



環境未来館では夏休みなどを利用してエコスクールを4回実施。例年以上の参加者でにぎわいました。

7月9日・昆虫調査大作戦 網や虫かごを持って家族連れ68人参加。未来館周辺の昆虫の様子を聞いた後、近くの田んぼや明石川に出かけ、トンボ・バッタ・チョウなどを追っかけました。「風が強かったので、あんまり採れへんかった」。子供たちはちょっぴり残念そうでした。

30日・夏休み宿題お助け隊（エネルギー編）地球温暖化やエネルギーについて考え、自由研究のヒントにしてもらおうという企画で242人の申し

込みがあり、抽選で71人が参加しました。紙芝居、未来館の太陽光発電の見学、電気自動車の試乗など楽しいメニューが用意され、中でも太陽電池でモーニングメロディーを作る工作キットが好評で、「鳴った、鳴った」と大喜びでした。

お手伝いは、NPOアースパル神戸の宮本代表ら2人と未来館のスタッフ13人がお手伝いをしました。

8月2日・森永乳業エコクッキング 灘区にある神戸工場とタイアップして開催。100人の定員に700人を超す応募があり、例年どおりの超人気ぶりでした。メニューは、家庭で残った牛乳を使ったチーズ作り 乳清を使ったヨーグルトドリンク 省エネ春巻スティック作りの3点。インストラクターの説明を聞きながら親子で仲良く腕をふるって、試食して、満足そうでした。

28日・宿題お助け隊3R編 夏休み最後の日曜とあって、親子連れ123人が参加。木工・エコおもちゃ・マイバッグ・ペットボトル工作・草木染・有機栽培の6つのブースのほか、昆虫探検ツアーも実施され終日にぎわいました。わの各部会からも40人がかけつけ、汗だくでお手伝いしました。

写真は28日のペットボトル工作（環境未来館）

カレッジだより



熱気の学園祭

絆・ささえ合おう明日へ をテーマに、秋晴れの10月8日、第17回学園祭がキャンパス一帯で行われ、現役・OB・地域の人たちでにぎわいました。

ステージでは9時半から23団体が演奏や踊り・合唱・ダンス・マジックなど、熱演を繰り広げました。中庭のテントなどには19の模擬店が並び、うどんや雑貨、ケーキ、野菜、花苗などを販売。園芸喫茶・茶室も大人気でした。ロビー・学習室では14グループが作品展示や体験教室を開きました。名物のバザーも3000点を売り尽くす盛況。グループ わ も、ベトナム料理とカレーの店を出し、会場は終日熱気に包まれました。終了後の構内では、ゴミ拾いをするびかぴか隊の姿が目につきました。=写真



今井学長と神戸市長が対談

今井鎮雄学長が矢田・神戸市長を招いて語り合う恒例の〔カレッジ対談〕が9月7日、カレッジホールで行われました。今井学長が、東日本大震災で被災地に駆けつけボランティア活動をしている学生がいることを誇りに思う、とカレッジの現状を報告。矢田市長からは、ポーアイに建設中の「スーパーコンピューター京」が来年秋には稼動すること、阪神大

28日に六甲山リレートーク

六甲山のすばらしい自然を、どうすれば次世代に残せるか 国際森林年2011 に合わせて「六甲山リレートーク」（シルバーカレッジ・神戸市建設局主催）が10月28日（金）午前10時から、シルバーカレッジ（ホール）で開かれます。発表者は、六甲山の景観保全に尽力している専門家やカレッジOBら10人。基調講演のあと、9人が日頃の活動ぶりを報告。「六甲山市民宣言」を採択します。昨年の「生物多

震災から財政面でも立ち直りつつあること、少子高齢化に対応するため「神戸っ子応援団」を全市に設けることなど、神戸市の5ヵ年計画について説明がありました。カレッジ学生に対しては、地域に根を下ろしたボランティア活動をしてほしい、と要望がありました。（「爽風」150号から）

学習支援の集い開かれる

23年度2回目の学習支援の集いが7月12日、カレッジ学習室で開かれ30人が参加しました。活動報告は4人。小部小（北区）で特別支援を始めたばかりの土井昭政さん（国10）は「子供たちの状態はさまざまなので戸惑うことが多い。嫌われないよう自分なりに努力している」と発表。ひよどり台小・北五葉小で英語などの教科支援を7年続けている鬼村信行さん（国14）は「児童と接触する機会を多くし、子供に学ぶという態度が大切だ。カレッジ在学中から学習支援ができる仕組みを作ってもらいたい」と訴えました。

「戦争と平和」の語り部として神戸空襲などの体験を子供たちに伝えている渡邊寛治さん（国10）、西阪順三さん（生8）は「戦争の悲惨さはわかってくれるが、その背景・原因となると理解が得られない。語り部が高齢で少なくなり、継続が危うくなっている」と話していました。その後、3分科会に分れて悩みや課題などの情報交換。活動していない登録者をどう少なくしていくか、について加藤委員長から説明がありました。（学習支援委員会）

西区会が未来館ツアー

西区会は7月28日、環境未来館見学ツアーを実施しました。夏休みとあって児童4人を含め27人が参加。子供たちは自由研究に役立てようと、ゴミの分別や回収されたゴミの処理について、スタッフの説明を熱心に聞き、メモをとっていました。隣接の工場でビン・缶・ペットボトルなど燃えないゴミの処理工程を見学した後、付近のレストランで昼食。13時過ぎ現地解散しました。（西区会 東本敦子）

様性講演会」に続くもので、カレッジ事務局では「ぜひ、現役・OBに聴講してほしい」と呼びかけています。入場無料。問い合わせは、事務局（078-743-8100）まで。

基調講演 = 新野幸次郎（神戸都市問題研究所）
発表 = 高畑正（神戸市建設局）豊田實（郷土史家、生環5期生）上田均（六甲摩耶鉄道）岡敏明（兵庫県勤労者山岳連盟）堂馬英二（六甲山を活用する会）根岸真理（登山家）河上誓作（神戸女子大教授）橋本佳延（人と自然の博物館）道満俊徳（里山和楽会・生環13期生）= 敬称略

WA からのお知らせ



新パソコン講座開講

グループ わ は、12月から長田区の地域人材支援センター（旧二葉小学校跡）で新たにパソコン教室を開講します。カレッジ関係者と一般の初心者が対象で、受講料は一講座（月5回）7000円の予定。講師はシルバーカレッジOB。カレッジのLL教室や第7学習室が普通教室になったため、神戸市からの要請もあり会場を移すもので、パソコンなどの機材も一新し、近く受講者を募集します。問い合わせはグループわ（743-8101）まで。

講師・アシスタント募集

グループ わ パソコン講座の講師・アシスタントを募集します。シルバーカレッジ生・OBで、パソコンの指導に興味のある方。希望者は、氏名 期・コース 住所 電話番号 メールアドレスを明示して、わ 本部か、パソコン講習の会担当者へ電話かメールでお申込みください。講習の会事務局＝電話752-2136・メールsahi-t@gem.hi-ho.ne.jp（朝日）、792-3708・hrs_imada@hi-net.zaq.ne.jp（今田）

東北支援チームの報告会

グループ わ は、11月22日（火）のジョイラックデーに「東北支援チーム報告会」を開きます。第1次チームの活動ぶりを撮影したビデオを上映するほか、第1次・第2次の参加者のうち10人が、田んぼのガレキ除去活動、昔遊びによる子供たちとの交歓会などの体験を語ります。午前10時～正午。学習室1・2で。ロビーでは写真などのパネル展示もします。

一の谷プラザがマラソン控室に

市民ら2万人が参加する第1回神戸マラソンが11月20日（日）、神戸市役所前 - 明石大橋折り返し - ポーアイ市民広場のコースで開催されます。クォーターマラソン（10km）は須磨浦公園がゴールとなり、一の谷プラザは警備などの控え室となるため、19日午後と20日は一般への貸室は行いません。

ぎゃらりー広報委員（3月現在、敬称略）部会・区会の情報は広報委員までお知らせください。【部会】柳川瀨淳一（国際）茅中英一（環境）寄藤忠彦（文化）岸田富雄（いきがい）【区会】久保正志（中央）大掛敏夫（兵庫）徳原尚世（北）吉岡康（西）細野恵久（須磨）秋山雄一（垂水）【施設など】三輪匡清（未来館）【一般】今田紘（須磨）宮里寿子（北）宮城智子（兵庫）胤艸武宏（北）堺寿代（西）

夏のイベント

つばやき

夏の3大イベント〔村まつり・かえっこバザール・夏休み工作塾〕は、関係者の協力で大盛況でしたが、〔果たして子供たちが楽しみながら体験し、感動を覚えて、来年も来てみたいと思ってくれるような内容だっただろうか〕。担当者としては、いささか不安を感じております。

子供たちに古き良き文化を伝え、物づくりの楽しさを体験してもらい、さらには順番待ちの行列ができるほど魅力のあるイベントにするには……。子供たちの要望・ニーズにこたえて思い切った衣替えをすべきではないか、と思います。

例えば、村まつりはイベント数を絞って広場全体を使用し、もっと雰囲気盛り上げるような工夫はできないか。かえっこバザールは、明らかに“不要な物品”が結構あったので、提供品について、きちんと啓蒙することが必要ではないか。工作塾についても、サンプルどおりに作るのではなく、一人ずつオリジナルの作品を作らせる方策を考えるなど、改善の余地は多いと思います。（事業担当・岸本清）

編集後記



広報担当という名目で、私も支援チームに加わり、東北へ行ってきました。町なのに家がない、人もいない、生活の匂いがない。あるのは広大なガレキの荒野…。阪神大震災より悲惨だな、というのが正直な感想です。現地では「ニカイゾク」という言葉が聞かれるそうです。家は残っているが1階は津波にさらわれ、もぬけの殻。2階だけで寝起きを強いられている被災者という意味です。

田んぼ修復と児童館での昔遊び。オールKSCで奮闘した支援チームの活動報告に思い切って誌面を割きました。現地で見えたこと、感じたこと、課題を座談会や一言集・グラフで特集しました。「支援はできるだけ長く続けよう」というのが一致した声です。〔子供たちやお年寄りへの、心のケアをお願いしますね〕。保母さんの言葉も忘れられません。さて10月中旬には、第2陣が現地へ発ちます。今号の活動報告をお読みいただいて、ぜひ、あなたも支援の輪に加わってください。（広報・南形徹）



夏祭り楽しむ2万人



④人出で販わう
中央緑道の模擬店
(中央㊟から)チ
ビッコ舞蹈団。サッ
カー。ヨーヨー釣
り。わの店。
⑤竹馬。ペタンク



10月～12月のイベントガイド

開催日時・場所	テーマと内容	問い合わせ先
10月13日(木)10:00～15:00 しあわせの村 グラウンド	親睦グランドゴルフ大会 会員相互の親睦を図る	グループわ 743-8101
10月22日(土)12:30～15:00 灘浜サイエンススクエア	エコスクール ミクロの世界を体験	こうべ環境未来館 995-3196
10月30日(日)10:00～15:30 神戸市シルバーカレッジ	第2回地域交流と文化の祭典 ステージ17、展示4クラブ	グループわ 743-8101
11月9日(水)10:00～15:00 神鉄北鈴蘭台駅集合	秋の森林浴ハイキング 鍋蓋山～七三峠～平野防火林道	グループわ 743-8101
11月23日(祝)10:00～15:00 布施畑環境センター	エコスクール ごみのゆくえを楽しく学習	こうべ環境未来館 995-3196
12月5日(月)9:30～11:30 花山小学校	日本伝承文化出前講座 大正琴・銭太鼓・着付け・生け花・和菓子	グループわ 743-8101
12月10日(土)10:00～15:00 こうべ環境未来館	エコスクール 3R大作戦 チクマ株式会社共催	こうべ環境未来館 995-3196

チャレンジボウル 丸草・伊須原組優勝
グループわ 主催のチャレンジボウルが9月18日、しあわせの村ローンボウルズグリーンで開催され、市内の愛好者ら44人・22ペアが熱戦を繰り広げました。試合は2人一組のペアーズ戦で行われ、丸

草(生14)・伊須原(生14)ペアが、3勝1分けの好成績で優勝しました。恒例のオープン大会ですが、今年は、初心者も体験できるコーナーを設け大人9人・子供4人がローンボウルを楽しみました。(宮崎芳江・生12)

わんぱくゾーンに子供の歓声

「しあわせの村まつり」が炎天の7月30日午後、芝生広場と中央緑道一帯で開かれ、約2万人(主催者発表)の人出で夜遅くまでにぎわいました。緑道には飲みもの・かき氷・たこ焼き・焼きそば・野菜・手作り雑貨・綿菓子・ヨーヨー釣り・輪投げなど31の模擬店がずらりと並び、浴衣姿の家族連れやカップルが店をひやかしたり、ゲームをしたり。ステージでは和太鼓や盆踊りのグループが次々と熱演。夜にはビンゴゲームや川井郁子のヴァイオリンコンサートも開かれました。

グループわは「わんぱくゾーン」を担当。

昔遊び・竹馬・サッカースピード測定・ペタンク・皿回し・動物風船の各ブースには子供たちが群がって歓声をあげていました。わの模擬店では綿菓子・竹炭・エコたわし・野菜を販売。「例年よりお客さんが多かった」と一森店長はにこにこ顔。当日は昔遊び32人・一寸奉仕8人・ペタンク8人・本部12人のスタッフが運営を手伝ったほか、模擬店では、ぴかぴか隊・ケナフ・生環9期生が販売に大忙しでした。

ポニーの騎乗やミニゴルフも人気があり、東日本大震災の募金も会場の各所で行われました。

(夏祭り関係の写真は、蘆田義和・渡邊佳視・南形徹が担当。「爽風」からも提供をうけました)

晴れて にぎやか 学園祭



食べ物・雑貨・花...賑わう中庭の模擬店㊤㊦。2F同窓会の展示(記事12面に)

好きなおもちゃゲット!

5000点でゲット! 人気のおもちゃ市〔かえっこバザール〕が8月6日午後、カレッジ構内で開かれ、600人を超える親子づれで大賑わい。ゲーム機・車・電車・キャラ・スポーツ用品・ぬいぐるみ・本・DVD...いっぱい並んだロビーは、歓声と興奮に包まれました。2階では昔遊び・一寸奉仕・野草クラブ・常盤大音楽グループがパフォーマンスを披露。今回はグループわと常盤大が主催。北区会・健福コースから6人ずつの応援が出て人出をさばいてくれました。

トピック



この面の写真は渡邊佳視・南形徹が撮影

夏休み工作塾

「ぼくの作品見て、見て」。夏休み工作塾が8月21日、研修館ホールで開かれ、

子供たち250人の歓声と熱気で終日にぎわいました。木工・ケナフ紙漉き(写真上)・折染め・ネイチャークラフト(写真下)の4つのブースにはお目当ての子供たちがずらり。人気の木工などは入場制限をするほどでした。スタッフの説明を聞き、材料をもらった子供たちは、真剣な目つきで作品に取り組んでいました。この日は、昆虫採集・標本づくりも実施され21人が参加しました。

